

航空連合NEWS

発行：航空連合／発行人：長谷川 樹 〒144-0041 東京都大田区羽田空港1-6-5 第5総合ビル5階 TEL (03) 5708-7161 FAX (03) 5708-7163



NAITO AKIRA

航空連合

内藤会長

対談

萩原智子さん



HAGIWARA TOMOKO

元 水泳オリンピック選手

2023年6月、航空連合が機内での盗撮を厳しく取り締まることをめざして取り組んできた撮影罪の法制化が実現しました。法制化による盗撮に対する抑止効果は職場でも一定程度、感じられていますが、罰則対象の部位が限定的であることや無断撮影行為など、引き続き課題があります。今回は「アスリート盗撮」をはじめ、スポーツ界が抱える問題の解決に取り組んでいる萩原智子さんにお話を伺いました。

1 これまでの歩み

内藤会長 萩原さんは水泳選手として素晴らしい実績を残され、現在では多方面でご活躍と伺っています。まずは、これまでのご経歴を教えてくださいませんか。

萩原さん 小学2年生で水泳を始めたのですが、1992年のバルセロナ五輪で、2年先輩にあたる岩崎恭子さんが200m平泳ぎで金メダルを獲得されて、強く憧れました。中学2年生の時には、初めて飛行機に乗って豪州に遠征しました。客室乗務員さんがメッセージを書いてくださり、「私たちはこんなにも応援してもらえる立場なんだ」ということを強く感じ、責任感を持って競技に向き合うきっかけになったことを覚えています。高校3年間はインターハイで3連覇を達成できたものの、自己ベストタイムが更新できず悔しい思いをしましたが、大学2年生で4年ぶりに自己ベストを出し、2000年のシドニー五輪に出場することができました。24才で一度引退したのですが、29才で現役復帰して、32才で2度目の引退をするまで選手を続けました。その後、大学院を経て

PROFILE

山梨県出身。2000年シドニー五輪競泳日本代表。小学2年生の時、海で溺れたことがきっかけで水泳を始める。中学3年生の時に、200m背泳ぎで当時日本歴代2位となる日本中学新記録樹立。インターハイでは、200m背泳ぎで3連覇を達成。2000年シドニー五輪200m背泳ぎ4位、200m個人メドレー 8位入賞。2002年日本選手権では史上初の4冠達成。2004年現役引退。5年の歳月を経て2009年現役復帰。30歳にして日本代表に再び咲く。「ハギトモ」の愛称で親しまれ、現在はスポーツ団体等の役員を務めながら、メディア出演や講演活動等もおこなっている。山梨県・福島県・愛知県春日井市で萩原智子杯水泳大会を開催。水泳の普及活動をはじめ、水の大切さと感謝の思いを伝える「水ケーション」の活動にも注力している。

大学勤務を経験したのち、日本水泳連盟の理事・アスリート委員会委員長を歴任し、水泳の普及と選手がより良い環境で強化できるように取り組みました。その中で、徐々に世界が広がり、講演やテレビでの解説、さらに競技団体のあるべき姿について発言する機会や教育関係にも関わらせていただくなど、様々なお仕事をさせていただいています。

2 アスリートとメンタル

内藤会長 スポーツの世界では、仲間やライバルの存在が重要といえますね。

萩原さん 個人競技なので、壁にぶつかった時は自分で乗り越える努力も必要で、「苦しいけれど苦しいと言えない」という時期がありました。1996年のアトランタ五輪選考会は3位で五輪に行くことができず、惨めな思いもしました。その時に指導者から「アスリートも1人の人間なのだから、弱みを見せてもいいんだよ。これまでやってきたことに自信を持とう。」と否定せずに肯定してくれたことがうれしかったです。それからは指導者に弱音を吐くこともできるようになりましたし、仲間やライバルにも「わからないことは聞く」という姿勢に変わりました。ただ、シドニー五輪で4位に終わり、帰国した時に、今度は「税金泥棒」と誹謗中傷を受けました。SNSはまだない時代ですが、面と向かって言われ、精神的にはつらい出来事でした。

内藤会長 メンタルトレーナーなどは、今ほど充実していない時代でしょうか。

萩原さん そうですね。しかし、シドニー五輪の出場時に驚いたのは、海外チームにはすでにメンタルコーチがいたのです。私たちには、そうした存在が必要かどうかわからない時代で、「指導者がどうにかしてくれる」という感覚でした。

内藤会長 より良い環境で競技ができることは、選手にとって大切です。

萩原さん ジュニア選手は強いシニア選手に憧れますが、そこで終わってしまうことも多くあります。そこでアスリート委員会では、両者をつなぐ懸け橋が必要と感じ、五輪メダリストにアンケートをお願いし、大切にしていることや練習・技術・メンタル面の課題についてとりまとめたものを冊子にし、ジュニア選手に配布したことがあります。アンケートからは、メダリストも最後はやはりメンタルが重要なのだということがわかりました。目標の立て方を含め、様々な知見を「見える化」でき、指導者や保護者からも好評でした。その後の経験からも、アスリートの声をしかるべきところに届け、解決につなげていくことは非常に重要であると感じています。

内藤会長 労働組合の役割は、職場の声を会社や社会に伝え、問題を解決することです。アスリートの声を集め、問題を解決する萩原さんに共感します。問題解決にはメディアとの関係も重要ですが、課題はありましたか。

萩原さん 中学3年生から記録が伸びて注目されるようになり、「ハギトモスマイル」という言葉が出てきました。その中で、話すことや態度がだんだんメディア寄りになっていく自分を感じていました。いわばメディアで作られる「スイマー萩原智子」という理想像に合わせるようになってしまったのです。何気ないひと言が違う解釈で伝えられてしまったこともあり、その後、私自身がメディア側に立った時に「アスリートの言葉はニュアンスも含めて大事に伝えたい」と思うことにもつながりました。「ハギトモスマイル」も最初はポジティブな意味合いだったと思うのですが、若い頃は徐々に重荷・義務感になってしまい、「勝ちたい!」も「勝たなければならない」に変わってしまったように思います。

内藤会長 期待がプレッシャーになってしまっていたのですね。

萩原さん 少し良い結果を出すと「調子に乗っている」などと一般の方からも中傷され、ショックで家に帰ったこともあります。そこで母が抱きしめてくれたことは救いでした。怒りや負のパワーを、「一人でも応援してくれる人がいれば大丈夫なんだ」と変換させることができました。

内藤会長 今夏のパリ五輪でも、選手への誹謗中傷が問題になりました。

萩原さん SNSは、良くも悪くも選手に直接メッセージが届きます。私自身は長年の経験から、今は誹謗中傷を受けても対処できる方法を見つけることができましたが、若い選手はなかなか難しいと思います。今回もSNSで誹謗中傷されている選手を見て、居ても立ってもいられずコメントしたこともありました。SNSは便利ですが、規制しにくいですし、一長一短がありますね。

内藤会長 アスリートは公人である一方、応援あるいは誹謗中傷する側は匿名という問題がありますね。

萩原さん コメントした人の本名がわかるくらいにしないと、誹謗中傷はなくならないと思います。パリ五輪では日本オリンピック委員会などが規制を強化して、SNSでの誹謗中傷をAI技術で自動削除できるようになったのですが、それでも追いつかないくらいでした。スポーツに限りませんが、SNSでつながっているからといって、何を言ってもよいわけではありませんよね。私は、自己受容力が高い人、つまり自分自身を認められる力がある人は、他人のことも認められると思っています。まずは、自分のことを大切にできる人をより多くしていくことが重要ではないでしょうか。



3 アスリート盗撮の問題

内藤会長 撮影罪の成立で、盗撮に対する抑止力は高まったのですが、依然として、客室乗務員が無断で撮影されたり、なかにはSNSにアップされるという問題が生じています。名札を付けて接客していますので、プライバシーの侵害です。削除対応は会社が判断することが多いのですが、量が多すぎて難しいのが実情です。

萩原さん 客室乗務員のみなさんは制服も含めてカッコいいので、悪意がなくとも「撮りたい」という欲求に駆られる人もいるのでしょね、ただし、少なくともひと声掛けることがマナーだと思います。

内藤会長 アスリートも同じなのでしょう。ひと声掛けると言っても難しさもあると思います。

萩原さん 盗撮を抑止することも大事ですが、逆にポジティブに捉えてみることもできるかもしれません。たとえば、「撮影する時には声をかけてください」、「一緒に撮影しましょう」というように言い方を変えてみるのはどうでしょう。水泳界では「水泳の日」を設けていて、その日はサイン会や撮影会もおこなっています。ファンとの交流という意味で、とても大切な位置づけです。もし、時間に余裕のある時に撮影しても構わないという客室乗務員の方がいらっしゃったら、そうした時間を作ってみるのもいいかもしれませんね。

内藤会長 逆転の発想ですね。一方、そうした枠組みを整備する前に、日々の仕事のなかで苦しんでいる乗務員や係員がいます。

萩原さん 以前は、盗撮のような行為をしている人は1つの大会で何人もいて、係員が見つけては写真データを消去してもらうという事態も多く発生していました。カメラを確認すると、お尻の写真ばかり残っていたこともあったと聞きます。現在は、必ず事前申請が必要になっていますので、撮影行為にはだいぶ規制がかかってきたと思います。赤外線カメラで撮られると水着が透けてしまうという問題もありましたが、15年ほど前からは、メーカーが一部透けない水着を開発するなど尽力されています。最近、バレーボールでもニュースになりましたが、こうした取り組みは、アスリートのためにもとても良いことだと思っています。

内藤会長 アスリートですから、ユニフォームにしても、良いパフォーマンスを発揮する観点が何より重要です。機内盗撮の問題では、SNS上で「スカートを履かなければよいではないか」という心ない声もありました。今はパンツスタイルを選べる航空会社も増えているので、本人が主体的に選ぶのはよいのですが、被害者が行動の変容を求められるのは筋が通りません。

萩原さん 昔、競技会で、「位置について・よいい」で腰を上げる方向に観客席が設置されていることがあり、この時は「さすがにおかしい」とアスリート側から見直しを要望し、スタート位置が逆になりました。現在は陸上競技などのスタート付近の撮影も規制対象になっています。

内藤会長 撮影罪は、機内においては客室乗務員のスカートの中以外は罰則対象になっていないという課題があります。無断で撮影されたとしても、お客様に指摘しづらい状況は、法制化前とあまり変わりません。

〈次ページへ〉



萩原さん 盗撮された自分自身が指摘しなければいけないというのは、精神的に厳しいですね。どうしてもその勇気が出ないこともあると思います。たとえばですが、一緒にいるクルーの中で、そのような状況に対処できるスキルがある人に、代わりに毅然と対応してもらおうというのはどうでしょうか。苦しい状況にある仲間がいても、そのような体制をチームとして整えられれば安心感につながるはずです。全員必須の基本的な研修も大事ですが、さらに高水準の研修を受ける人がいてもよいと思います。チームの中にそうした方がいると頼りになりますよね。**不当な盗撮行為を減らしていくためには、個人だけでなくチームとしての対応力も必要不可欠**だと思います。ぜひ、苦しいことを苦しいと言える環境整備と、そのような時に助け合えるチームを作りたいと思います。

内藤会長 おっしゃることに共感します。「弱みを見せてもよい」とか、「苦しい時に苦しいと言ってもよい」というのは、心理的安全性の観点で大変重要だと思います。一方で職場では、相談すると「自意識過剰ではないか」と思われることを懸念する声や、「周囲が忙しそうで相談できない」という声も少なからず聞きます。

萩原さん 管理者が忙しいという話は、学校現場でも聞きます。先生方が授業や校務に加えて、保護者からのクレーム対応等もすべて対処していたのですが、様々な仕事で疲れ切っています。そこでできたのが第三者機関です。弁護士を含む相談窓口を設けて、クレームなどはそこに相談す

ば対処方法を教えてくれるようになっていきます。**自分で抱え込まず、専門家の力を借りて解決をめざすという取り組みも考えられる**のではないのでしょうか。

内藤会長 参考になります。個人的な意見ですが、私は産業別労働組合である航空連合がハラスメントなど、職場の相談窓口となる専門機関を持つことは有効だと考えています。業界団体への提言も考えたいと思っています。

4 航空関連産業への期待

内藤会長 今日はいくつも重要なアドバイスをいただきました。最後に、これからの航空関連産業への期待をお願いできますか。

萩原さん 日本は島国ですので、空港はまさに世界への玄関口です。中学2年生で初めて豪州に行った時、「なんて世界は広いのだろう」と感動しました。出会いは成長のエネルギーです。**若い人が世界に出て視野を広げていくためにも、航空関連産業は本当に重要な仕事**だと思います。私自身は「人の幸せが自分の幸せ」という価値観や「自他共栄」の気持ちを大切にしています。航空関連産業の職場のみなさんが、**お客様や同僚の方の幸せを自分の幸せと考えるような環境づくり**に向けて、航空連合のみなさんには頑張ってくださいと思います。

内藤会長 しっかりと受け止めます。労働組合は、仲間同士でモチベーションを高め合い、仕事に誇りを持てる職場をつくっていくことが何よりも大切だと考えています。今日は、本当にありがとうございました。

対談を終えて

トップアスリートが最高のパフォーマンスを発揮するために、メンタルトレーニングやライブ、コーチなど仲間とのつながりを重視していることを学びました。同時に、職場の声を聞き、心理的安全性を高めながら仲間同士のつながりをつくっている労働組合の重要性を再認識しました。

撮影罪法制化は客室乗務員の職場の声が原動力でしたが、他に盗撮や無断撮影に苦しんでいる方々の力があつたからこそ成立しました。今度は私たちがアスリートをはじめとするまだ盗撮に苦しむ人の力になる番です。職場内で法施行の意義や運用上の課題を話し合い、それを社会に発信することで、無断撮影の抑止など、撮影罪の実効性を高めていきましょう。「ハギトモスマイル」に多くのヒントと勇気をいただきました！



航空連合

は、航空関連産業で働く仲間・労働組合が大同団結し、産業の魅力の向上や基盤の強化に向けて1999年10月に結成された、航空労働界を代表する最大の産業別労働組合です。58の企業別組合の46,083人（うち客室乗務員約15,000人）で構成され、ナショナルセンター「連合」に加盟しています。



フォローを
お願いします!
Facebook



Follow me!
Instagram



会長 X
始めました!
X



ニュース・航空連合へのご意見は
E-mailでお受けしています。

アドレス avinet00@jfaiu.gr.jp
ホームページ <https://www.jfaiu.gr.jp>

アルコール関連相談窓口をご活用ください。

航空関連産業での飲酒に係る不適切事象の根絶に向けて、定期航空協会が無料の相談窓口を設けております。航空会社に所属する方のみならず、航空連合加盟組織の皆様も利用可能です。相談内容は決して、勤め先企業にも定期航空協会にも伝わりませんので、お気軽にご相談ください。

